

# History

キラリを再発見

## 家形に作られた横穴

山田横穴群は、比木山田地区の市道玄保宮木ヶ谷線沿いの宅地裏に位置し、A群3基とB群2基の合計5基の横穴が発見されていました。B群2基は昭和53年に発見され、郷土史研究家の小野芳郎氏が発掘調査を行っています。

A群の平面形は、第1号墳がフラスコ形で第2号墳が隅丸方形、第3号墳は寸胴型です。発掘調査が行われたB群2基は、土採取工事により消滅してありませんが、第1号墳は平面形が横長の胴張方形で、断面は尖頭アーチ状です。第2号墳は片袖の胴張方形で、棺台が造られています。断面は主軸と直行する屋根型をしていることから、玄室の天井部は四柱造の家形をしています。

出土遺物は、A群からは6世紀後半から7世紀代の須恵器12点と土師器1点のほか、10世紀ごろの灰釉坏1点と13世紀ごろの山茶碗底部が1点出土しています。また、B群からは7世紀代の須恵器59点と刀子2片、耳環1点、土師器1点などが出土しています。

照会 社会教育課 ☎0548⑧1129



▲第1号墳の内部



▲第2号墳の内部



▲B群出土須恵器



埋蔵文化財包蔵地  
山田横穴群



▲緊急時対策所の様子



▲可搬式動力ポンプ操作訓練の様子

中部電力は9月4日、複合災害を想定した全社防災訓練を実施しました。

浜岡原子力発電所では、休日に南海トラフ巨大地震が発生し、津波により構内が浸水、外部電源や非常用ディーゼル発電機が使えなくなり、全交流電源が喪失する事態を想定した訓練が実施されました。

緊急時対策所では、当直者5人が初動対応として情報集約や模擬通報連絡などを行った後、段階的に災害対策要員が参集し、緊急時対応訓練を実施。全災害対策要員約600人中、約300人が訓練に参加しました。

3、4号機の中央制御室を模擬したシミュレーター訓練室では、全交流電源が喪失し、照明が消えた中で運転員が異常個所の特定や原子炉への注水の状態を確認する訓練を行いました。可搬式動力ポンプを用いた訓練では、実際に放射性物質が外へ漏れ出す可能性がある場合を想定し、専用の防護服を着用のもと、原子炉へ注水するためのホースの敷設や放水訓練などを行いました。

# Atomic

暮らしと原子力

浜岡原子力発電所の  
防災訓練を実施